

児童のインプットを大切にするために

児童によいインプットを与えて理解を促すためには、指導者が子どもたちにわかりやすく伝える工夫を行うことが必要です。児童が思考を働かせながら「聞く」機会を大切にしましょう。

☐ **Mine (Model)** 身振りや表情、実物や視聴覚教材を活用して説明する

- ・身振り・表情、実物、イラスト・写真などの視聴覚教材を活用する。



☐ **Example** 単語や話の内容が抽象的だと思ったら、具体例を出す

- ・具体例を示す。 vegetable → tomatoes, cucumbers, potatoes...
- ・抽象度の高いものを、相手がイメージ化できるように具体化して話す。

☐ **Redundancy** 多様な発想による説明を心掛ける

- ・一つの表現を変えるのではなく、全く発想を変えて説明を重ねていくことで、指示を全て理解できなくても、何となく推測しながら理解することができる。

☐ **Repetition** 大切なことは繰り返す

- ・大切だと思われる単語や表現は、繰り返し使うことで、「記憶」や「印象」の大切さを強調する。

☐ **Interaction** 英語によるやりとりを大切にする

- ・指導者は積極的に英語を多用するようにするが、児童には強要しない。
機械的な発音や英文の暗記は強要しない。 ※児童が自然に発話することを妨げない。
- ・TPR 全身活動を大切にする。
発話を強要するような QA は控え、指導者は英語で指示して児童に頻繁に行動させる。
- ・正確さを求めるのではなく、児童の自然な口のすべりを大切にする。
十分な Listening ができた頃に単語や英文を言わせる。その際に、発音についての厳しい指導は避ける。
英語を発話することが楽しいと思わせる。



☐ **Expansion** 子どもの発話を上手に修復したり拡張したりしてフォローする

- ・児童に英語で表現することを強要するのではなく、児童の不十分な英語表現について、共感的な姿勢で補ったり拡張したりしながら話を展開する。

☐ **Reward** 具体的に励ます

- ・子どもの発話や見当に対して、できるだけ具体的に評価し、励ましの言葉をかける。



《参照》

渡辺 時夫他「英語が使える日本人の育成—MERRIER Approach のすすめ—」三省堂

渡辺 時夫「分かりやすい英語を話す工夫—MERRIER Approach の紹介—」三省堂